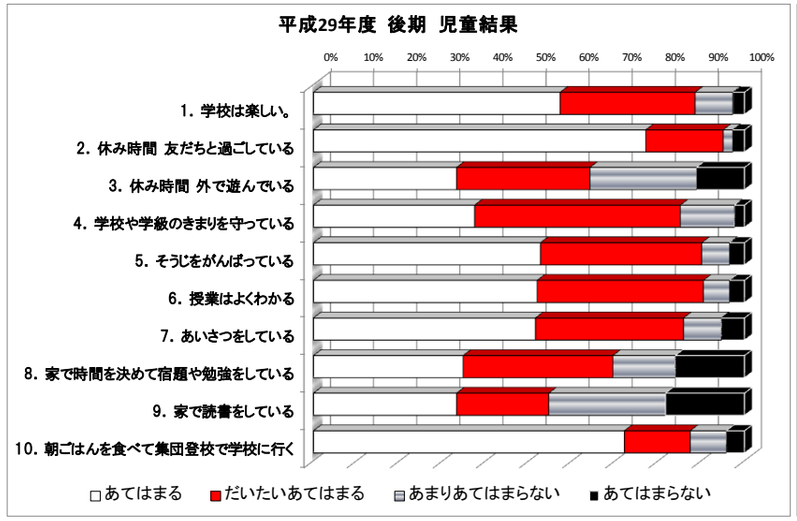
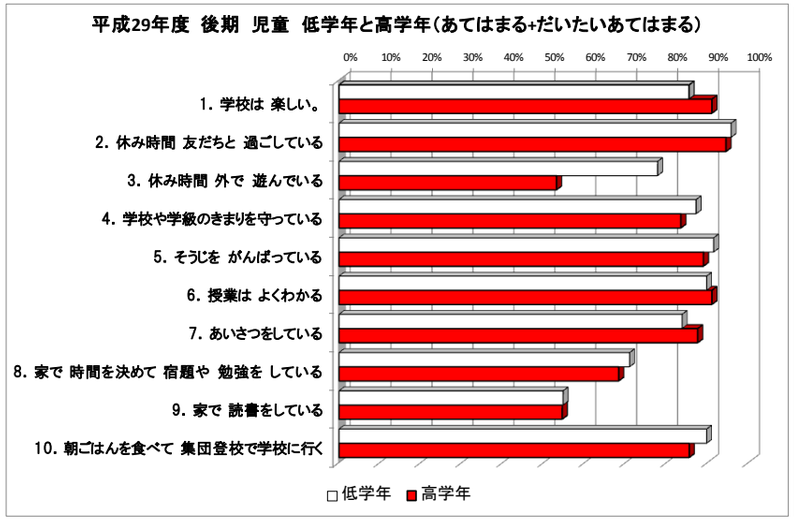
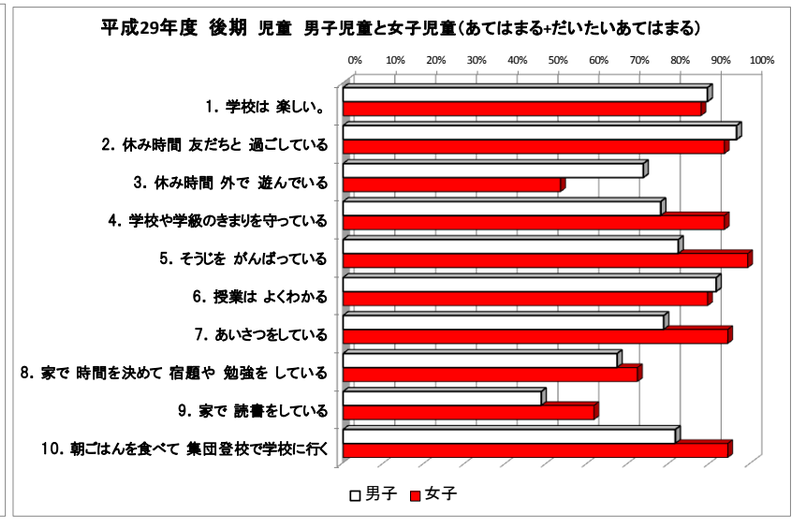
光徳だより　平成 29 年度　後期　学校評価号

平成 30 年 3 月発行　京都市立光徳小学校　校長　斉木光子







（1）児童の結果より

①1～10 の項目を比べて（左図）

90％以上ある項目は，「2. 休み時間友だちと」「5. そうじ」「6. 授業がわかる」です。80％台は「1. 学校は楽しい」「4. きまりや約束」「7. あいさつ」「10. 集団登校」です。70％台はありません。

それ以下になると，「3. 休み時間の外遊び」64%，「8. 家庭学習」69%，「9. 家庭読書」55％となっています。

平成 29 年度前期と比べ 5%以上変化しているのが，「9. 家庭読書」-5%，「10. 集団登校」－5%です。

また，「9. 家庭読書」の減少が前回から続いており，前々回と比べると-13%となっています。しかし，「8. 家庭学習」の増加が前回から続いており，前々回と比べると+10%となります。これは家庭の協力があってこそのことで，うれしく思います。

しかし，「8. 家庭学習」は 70%に届いていません。このことから，本校の課題として，前期と同様家庭学習習慣及び家庭読書習慣，そして休み時間の外遊びする児童が少ないことです。

②低学年児童と高学年児童を比べて（中図）

低学年児童と高学年児童を比べ 5%以上差があるのが，「1. 学校は楽しい」と「3. 休み時間の外遊び」です。その他はほとんど差がありません。

「3. 休み時間の外遊び」は 25%以上低学年が多く，前回の 10%と比べさらに広がっています。逆に「1. 学校は楽しい」は 6%高学年が多くなっています。

③男子児童と女子児童を比べて（右図）

男子児童と女子児童を比べ 5%以上差があるのが，「3. 休み時間の外遊び」「4. きまりや約束」「5. そうじ」「7. あいさつ」「9. 家庭読書」「10. 集団登校」です。

一番大きく差があるのが「3. 休み時間の外遊び」で 20%男子児童が多くなっています。これは前回とほぼ同じ差で，②の結果と合わせると，外遊びしない児童は，高学年の女子児童に多いことが分かります。

次に差があるのが「4. きまりや約束」「5. そうじ」「7. あいさつ」で女子児童の方が 16～17%多くなっています。「5. そうじ」「7. あいさつ」は前回に比べ差が広がっています。

その次に差があるのは「9. 家庭読書」「10. 集団登校」で，どちらも 13%女子児童の方が多くなっています。また，どちらも前回と比べ差が大きくなっています。

しかし，「8. 家庭学習」は 5%女子児童多いですが，前回 8%あった差が縮まっており，男子児童の家庭学習習慣がついてきていると考えられます。

④児童の回答から見られる傾向

【1】児童全体の項目を比べて

1. きまりや約束を守る児童は，そうじをがんばり，あいさつができている。

【2】女子児童の項目を比べて

1. きまりや約束を守る女子児童は，そうじをがんばっている。

【3】男子児童の項目を比べて

1. きまりや約束を守る男子児童は，そうじをがんばり，授業がよく分かり，あいさつができる。
2. 授業がよくわかる男子児童は，休み時間友達と過ごし，きまりや約束を守り，そうじをがんばっている。

【4】低学年児童の項目を比べて

1. きまりや約束を守る低学年児童は，学校が楽しく，そうじをがんばり，授業がよく分かり，あいさつができる。
2. そうじをがんばっている低学年児童は，きまりや約束を守り，授業がよくわかり，あいさつができる。

【5】高学年児童の項目を比べて

1. そうじをがんばっている高学年児童は，きまりや約束を守り，あいさつができ，家で読書をしている。
2. 学校が楽しい高学年児童は，休み時間友達と過ごしている。

以上から考えられることは，「きまりや約束を守る」ことは児童の生活で，いろいろな面に影響を与え大切であると考えられます。

「きまりや約束を守る」こと以外で影響を与えやすいことを男女別にみると，女子児童は特にありませんが，男子児童は「授業が分かる」「あいさつ」「そうじをがんばる」ことと考えられます。また，低学年児童

では「学校が楽しい」「授業が分かる」「あいさつ」「そうじをがんばる」，高学年児童では「学校が楽しい」「あいさつ」「そうじをがんばる」と考えられます。

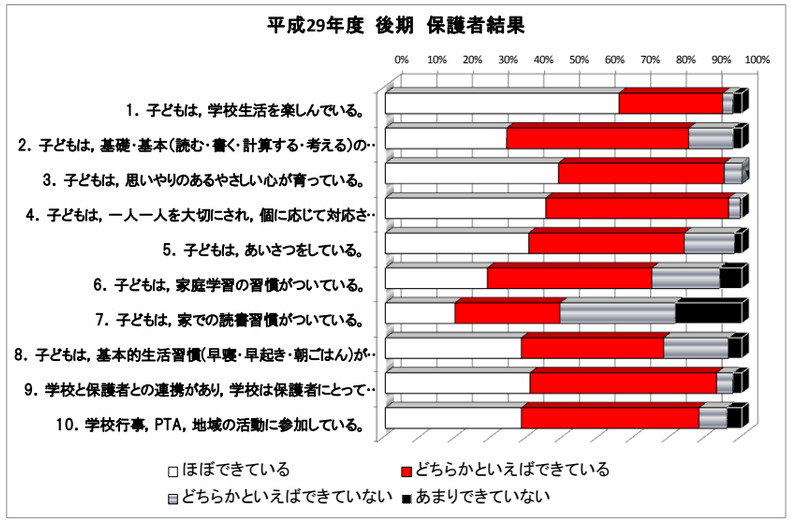
（2）保護者の結果より

①1～10 の項目を比べて

90%以上ある項目は「1. 学校生活を楽しむ」「3. 思いやりのある心」「4. 個に応じた対応」「9. 学校は相談しやすい」，80%台の「2. 基礎基本の学力」「5. あいさつ」「10. PTA 等活動」です。

それ以下になると，「6. 家庭学習習慣」75%，「8. 基本的生活習慣」78%，「7. 家庭読書習慣」49%となっています。このことから，課題として基本的生活習慣や家庭学習習慣，家庭読書習慣あげられます。

平成 29 年度前期と比べ，5%以上変化しているものはなく，ほぼ同じ回答結果です。



②低学年児童保護者と高学年児童保護者を比べて

5%以上差があるのは「10.PTA や地域の活動」で低学年児童保護者が 7%低くなっています。前回 9%の差があった「6. 家庭学習習慣」は 3%になっております。

家庭学習習慣は，学年が上がるとついていくと考えられますが，低学年から定着できるように，家庭でもご協力お願いします。

（3）本校として取り組むこと

以上の結果から，本校児童がより成長するための課題として，前回の課題と同様に今回も引続き「家庭学習習慣」「家庭読書習慣」「基本的生活習慣」「あいさつ」の 4 つに取り組んでいきたいと思います。

児童や保護者の回答から，「あいさつ」はできるようになっていますが，低学年児童のあいさつが少なかったり，高学年児童でもきちんとしたあいさつができなかったりする児童がいます。また，朝の登校時のあいさつの様子を見ていると，学校としては十分だと考えておりません。あいさつについては，あいさつする児童がより多くなるよう，引き続き取り組みを振り返り，指導を進めていきたいと思います。

家庭学習習慣の定着は，教職員が研究・研鑽を重ね日々の授業をより良くしていくとともに，家庭学習習慣定着のための課題の選定や家庭読書習慣定着のための指導等について取り組んでいき，学校の授業と家庭学習の両輪をよりよく回転させることで子どもたちの学力向上をを目指していきます。

基本的生活習慣については，生活調べなどをふまえて，定着に向けた呼びかけをより進めていいきます。

家庭学習習慣・家庭読書習慣の定着，基本的生活習慣の確立については，各家庭のご協力が不可欠です。よろしくお願いします。

学校評価推進委員会から　〇各委員の皆さんからの御意見等

・昔はあいさつをしなかったりそうじをしなかったりしたらゆるしてもらえなかった。今の時代はしなくても許してもらえる。
・勉強はできる子はほっておいてもついていける。ついていけない子をどうフォローするのかが課題。基本的には家庭に責任はあるが，できないところは学校と協力していくようにすることが大切。
・家庭学習や家庭読書が改善していない。家庭でどうするのか伝わっていないし感じていない。保護者がもっとしっかり受け止められるようなものが必要。その意味では，家庭教育学級等で，こういうものが必要だと伝えてほしい。
・受験となって初めて勉強の仕方が分からないと言っている。家庭学習は小学校からきちんと取り組むことが必要。また，親の意識が変わるように，PTA などで呼びかけていくことも大切。
・最近，試験の仕方が変わっている，暗記学習や単に問題を解いたら良いのではなく「考える力」が必要で，自分の考えを文で表現することが求められている。そのためには，読書が不可欠。しかし，読書をさせるのは難しい。
・中学になるとスマホをもちはじめ，読書量が減る。記述式の問題が増えるのならば，読書習慣をつけさせたい。親も活字離れになっていることも原因では。
・伝えたいことが伝えられない子どもが増えている。自分で考えて伝えられるよう「読書」は宿題にしては。
・あいさつと読書は課題。あいさつは中学に進んでもできているが，規範意識を上げるにはどうすればよいのか難しい。
・校帽をかぶらない子がいるのは残念。
・そうじが楽しくなるように，そうじ道具の種類を用意してはどうか
・勉強が苦手でも，そうじとあいさつはきちんとしてほしい。きちんとできる「何か」をもつことは人として大切。
・学校評価の項目に「いじめ」も入れてはどうか。
・昔と違い，生活環境が大きく変わり，生活サイクルが違うから枠にはまりにくくなっているのではないか。

学校より

〇スマートフォンの使い方や使わせ方，親の姿を見て子どもは真似していくことを知らせるのに，より具体的に働きかけていきたい。
〇学校評価の項目を変えて，子どもを見る視点を再確認できるよう検討していきたい。
〇国語力をつけることは学校として課題と捉えている。読書が増える働きかけをしたり，音読を全校の宿題にするなど宿題の形式を統一したりして，家庭学習・家庭読書が増えていくよう考えたい。